

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	価値的・態度的側面のみならず、知識的側面や技能的側面に関する指導がバランスよく行われ、実践力・行動力の育成につながっている事例
-------	---

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

岡山県高梁市

○学校名

岡山県立高梁高等学校

○学校のURL

<http://www.takahasi.okayama-c.ed.jp/takahasi.htm>

2. 学校紹介

○学級数

【普通科】全学年各3学級、【家政科】全学年各1学級、【合計】12学級

○児童生徒数

【全生徒数】445人（平成25年11月29日現在）

（内訳：1年次生158人、2年次生149人、3年次生138人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

- 本校の歴史と伝統を重んじ、進取の気性をもって自主・自立・友愛の精神を培い、品位ある人格の完成を目指すとともに、平和な国際社会の有為な形成者を育成する。
- 真理と正義を愛し、個人の能力を最大限に発揮させるとともに、協力と責任を重んじ、健康で明朗な教養ある社会人を育成する。

【人権教育目標】

- 基本的人権について正しく理解させるとともに、これを尊重する態度を育成する。
- 生徒一人一人の個性や能力の伸長に努め、主体的に生きる力を育成する。
- 人権を尊重する教育環境を構築し、豊かな人間関係を築いていく基盤となるようにする。

○人権教育にかかる取組の全体概要

①人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成

- 人権や人権擁護について学び、その理解を深めることで、人権の価値や重要性を共感的に受けとめる感覚を育成し、人権を守るために具体的な行動がとれるようにする。
 - ・各教科等で、様々な人権課題についての理解を深めさせる。
 - ・障害のある人、高齢者、外国人等との交流やホームルーム活動、部活動等の多

- 様な集団活動、ボランティア活動等を進めることで豊かな人権感覚を育成する。
- ・人権問題を取り上げた参加体験型学習等で、表現力やコミュニケーション能力、人間関係を調整する能力等を育成する。

②自立支援

- 人権問題に関わり教育上配慮を必要とする生徒が、将来社会において自立するために必要な力を培う。
- ・担任と養護教諭・教育相談係・人権教育係等との連携を密にするなど、一人一人の状況に応じたきめ細かな指導・相談・支援ができるようにする。
- ・家庭、地域や関係機関等と学校との連携を図るようにする。

③人権を尊重する環境づくり

- 自分や他の人の大切さを認め合えるような学校・地域の雰囲気づくりや、そのための条件整備などの環境づくりに取り組む。
- ・多様な集団活動等を通じて、連帯感や自尊感情を育む雰囲気づくりをする。
- ・校内の言語環境を整えたり、人権に関わる標語やポスターを掲示したりして、人権を尊重する気運を醸成する。
- ・教職員研修や保護者への啓発を充実させる。
- ・ユニバーサルデザインの視点から、教育施設の整備に取り組む。

3. 特色ある実践事例の内容

【取組のねらい、目的】

- これまで知的理解を中心に取組んできた人権教育ホームルーム活動を見直し、人権感覚についても、共感的に理解する力やコミュニケーション能力、自他の人間関係を調整する能力という技能的側面から捉え、育成を図る。

【取組を始めたきっかけ】

- 平成24年度・25年度に岡山県高等学校等人権教育研究モデル推進校指定事業を受けて取り組んだ。

【取組の内容】

1 主題 「集団活動の中で人権意識を高めよう」～タテ割り L H R を中心に～

ロングホームルーム

2 主題設定の理由

- これまでの人権教育のホームルーム活動は、互いに慣れ親しんだ関係がつけられているホームルーム単位で行っていたが、学科・年次の異なる相手と意見を交流する体験を取り入れることで、人権感覚の育成にも効果があると考え、普通科・家政科の1～3年次生が混在する集団（以下「タテ割りLHR」という。）で実施することとした。
- これまで生徒の主体性を育成するために、生徒会役員を中心とした学校行事の運営や委員会活動等について取組んできた。この取組から得た手法等を生かして、タテ割りLHRにおいても、生徒の進行によって、諸問題について共に

考え話し合う活動を通じて、自主的、実践的な態度を伸長したいと考えた。

3 取組の内容

(1) 取組の主な流れ

事前準備

- ・タテ割りLHRの内容を知らせる生徒会新聞の発行
 - ・班・グループ分け
 - 班の構成^{*1}
 - ・生徒 約30人 (5～6人編成のグループ5つ)
 - ・運営係生徒^{*2} 3人 (司会2人・記録1人)
 - ・助言者教員 2人
- *1 1つの班で、1教室を使用する。
*2 運営係生徒は担任の推薦により決定する。
- ・運営係生徒による事前の打合せ
 - ・助言者教員による事前の打合せ

タテ割りLHRの実施

事後活動

- ・生徒の振り返りシートやアンケート
- ・運営係生徒、助言者教員へのアンケート
- ・反省会 (人権教育委員会→職員会議)

(2) タテ割りLHRの主な流れ (45分×2単位時間連続)

準備

- ・会場づくり (グループ構成員の発表、机・椅子の配置)
- ・名札の作成

導入

- ・運営係生徒の自己紹介
- ・自己紹介を兼ねたアイスブレイク
- ・各グループのリーダーの選出 (リーダーは話し合い活動の進行を行う。)
- ・本時の目標の確認
- ・話し合いのルールの確認

自他を尊重した話し方、聴き方の技能について、運営係生徒が実践し、説明する。

展開

- ・本時のテーマについての話し合い活動

まとめ

- ・まとめと振り返り

(3) 実践した内容及び成果と課題

○1年目 第1回「学校祭について」

〈目標〉

学校行事の問題に関心を持ち、話し合い活動に自主的に取り組もうとしている。また、自他を尊重したコミュニケーションを実践している。

〈話し合い活動の主な内容〉

- ・「全校制作」の在り方、その内容・表彰 (順位発表) の在り方

- ・学校祭をよりよいものにするために

〈成果と課題〉

学校祭については、生徒会執行部が運営を行うに当たって参考となる様々な意見が出された。また、初めてのタテ割りLHRであったが、生徒たちは普段あまり話す機会のない相手とも互いを尊重しつつ意見の交流をすることができていた。生徒アンケートには「部活動以外で話すことのなかった先輩や後輩と話すことができて良かった。今後もどんどん校内で話をしていきたい。」「自分と異なる意見を聞き、今後はできるだけ多くの人の意見を聞くことが必要だなあと思った。」等の意見があり、多様な人と関わることを肯定的に捉えることができるようになるとともに人間関係を深めることもできた。

○1年目 第2回「いじめについて」

〈目標〉

いじめは絶対に許されないものであることを理解するとともに、いじめの問題に関心を持ち、その防止に自主的に取り組もうとしている。また、自他を尊重したコミュニケーションを実践している。

〈話し合い活動の主な内容〉

- ・いじめに関するアンケートの結果
- ・いじめの定義
- ・いじめられる側にも原因があるのか
- ・いじめを防止するために

〈成果と課題〉

互いを尊重しつつ意見の交流を行い、いじめについて理解を深めることができていた。生徒の振り返りシートには「いじめについてのタテ割りLHRは特によかったと思いました。自分以外の意見で考えさせられることがたくさんあったり、どんな理由があってもやってはいけないことだということを改めて感じたりしました。」「いじめに対して考えることができたという面では良かったが、そこまで深く考えることはできなかったと思う。特にいじめという人権問題には可能な限り時間を使って、話し合いを深くまですることができれば良いと思う。」等の意見があり、多くの生徒がいじめの問題への関心を高めることができ、いじめについて考えたり話し合ったりすることを肯定的に捉えていた。ただ、生徒の意見にもあるように、この回は1単位時間（45分）で実施したため時間が十分ではなかった。

○2年目 第1回「たか高、どう思う？」

〈目標〉

学校の一員としての自覚と責任に基づき、学校生活の向上に関わる問題に関心を持ち、話し合い活動に自主的に取り組もうとしている。また、自他を尊重したコミュニケーションを実践している。

〈話し合い活動の主な内容〉

- ・たか高のよいところと改善したいところ
- ・たか高をよりよい学校にするために

〈成果と課題〉

学校生活の向上について様々な意見が出され、更に「意見が出るだけで何

初回から運営係生徒の事前打合せを設けていたものの、教員や生徒会役員からの説明だけでは十分に理解が深まっていなかったことが、生徒アンケートから分かった。そのため、運営係の生徒同士での話合いの時間を設けたり、身に付けてほしいコミュニケーション技能を実践させたりして事前の準備を充実させた。

○教職員の人権課題への理解の深化について

固定的な性別役割分担意識等については身近な課題ではあるものの、指導に当たって現状と課題について理解をより深めるために、人権擁護委員を講師として招き、事前に研修を行った。

4. 実践事例の実績、実施による効果

【取組の実績】

- 平成24年度の生徒アンケートの結果によると「グループや班の人たちの意見を、自分の考えと比較しながら聞くことができた、ややできた。」と回答した生徒は約9割、「自ら進んで話合いに参加できた、ややできた。」と回答した生徒は約7割であった。両者を比較すると、自ら進んで参加する姿勢がやや弱いという課題はあるものの、アンケート結果や話合い活動中の生徒の様子から判断すると、共感的に理解する力やコミュニケーション能力の育成に効果があったと考える。
- 「いじめ」については、事前に行った生徒アンケートの結果をもとにしたため、自分たちの問題として捉えて話し合うことができた。約9割の生徒が「いじめについて考える契機となった。」と答えており、意識の向上につながった。
- 男女相互の理解についても、話合い活動を通して様々な感じ方や考え方に触れることにより、深めることができた。

5. 実践事例についての評価

- タテ割りLHRは、普段は接することのない人と意見の交流をすることがポイントとなっている。初年度の生徒のアンケートには肯定的な意見だけではなく、「先輩と一緒にだと意見が出しづらかった。」等の意見も出ており、よく知らない人と話をすることに不安や戸惑いを感じていることが確認できた。学校での活動として「場面」を設定しなければ、これらの生徒が進んで様々な人と交流することは考えにくく、このような取組によって、様々な人と交流することに慣れ、その体験を通して、人権尊重の精神に基づき共感的に理解する力やコミュニケーション能力、自他の人間関係を調整する能力などの資質や能力を育成することができた。
- 人権教育係と生徒会係とが連携し指導内容や方法等を工夫したことで効果が高まった。生徒の自主性を大切にした話合い活動ができたり、意見が学校行事や生活の改善等に反映されることにより、次の活動の意欲にもつなげることができたりした。また、「よりよい学校づくりのために」という視点で、いじめや男女の平等について話し合えたことで、人権課題を自分たちの問題として捉え、理解を深めることができた。上記の内容と合わせ、人権に関する知的理解の深化とともに人権感覚の育成を図ることのできる指導内容・方法だと考える。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

岡山県立高梁高等学校

これまで知的理解を中心に取り組んできた人権教育を、知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面に関するバランスのとれた指導になるように見直し、実践力・行動力の育成につなげていった事例である。

本実践の特徴は、普通科、家政科の1～3年生が混在する「タテ割り LHR（ロングホームルーム）」を実施し、生徒の人権感覚と自主的・実践的な態度を育成している点にある。校務分掌の人権教育係と生徒会係が人権教育のねらいと特別活動の目標を相乗的に達成するよう連携して企画に当たり、運営に当たるリーダーを育成したり、人権課題を自分の問題ととらえるための教材の工夫をしたりして効果を上げている。タテ割り LHR の話合いを通して、共感力、コミュニケーション力、学校生活上の問題の改善や人権課題解決への意欲等が効果的に育成されており、参考になる。